

# 旭川地区サッカー協会 3種事業委員会

## リスペクト・フェアプレーデイズ 2024

### 実施計画

- 期 日 春：2024年4月27日（土）・28日（日）・29日（月）  
夏：2024年7月20日（土）・21日（日）  
秋：2024年9月7日（土）・8日（日）・21日（土）・22日（日）・23日（月）  
+ MWO 配置の対象期日については9月中の試合が設定されている全日とする。
- 場 所 東光スポーツ公園・忠和公園・カムイの杜公園・花咲スポーツ公園・東川ゆめ公園・上富良野富原運動公園・留萌浜中運動公園・増毛中学校・士別天塩川サッカー場
- 対 象 北海道カブスリーグ・道北ブロックカブスリーグ・道北地区カブスリーグ参戦チーム
- 内 容 ① 宣誓セレモニー（第1試合の対戦チーム）  
② リスペクト旗を囲んでの対戦チームによるキックオフ前の写真撮影（全試合）  
③ MWO の配置  
④ 選手・指導者・審判・保護者への振り返りアンケート（任意）  
※ ①と②の写真および④の集計結果をホームページに掲載

### MWO の配置

期日	大会（リーグ）名	配置試合数
リスペクト・フェアプレーデイズ 春	道北ブロックカブスリーグ	4
	道北地区カブスリーグ	1 2
リスペクト・フェアプレーデイズ 夏	道北ブロックカブスリーグ	3
	道北地区カブスリーグ	1 0
リスペクト・フェアプレーデイズ 秋	北海道カブスリーグ	2
	道北ブロックカブスリーグ	6
	道北地区カブスリーグ	2 2
リスペクト・フェアプレーデイズにおける MWO 配置試合数の合計		5 9

※上記59試合のうち9試合は、他の種別（1種・4種・女子）に所属しているMWOを配置。

# 振り返りアンケート

Google フォームにて回答を集約

## 内 容

- 0 共 通 ① 試合の期日 ② 区分（選手・指導者・審判・保護者の別） ③ 所属チーム名
- 1 選 手 ④ 味方選手のミスにどんな声をかけましたか。  
⑤ 相手選手に対してどんな態度を取りましたか。  
⑥ 審判にどんな態度を取りましたか。
- 2 指 導 者 ④ 選手のプレーに対してどのような声かけをしましたか。  
⑤ 選手の判断に対してどのような姿勢で臨みましたか。  
⑥ 審判の判定に対してどのような態度で臨みましたか。  
⑦ リスペクト・フェアプレーに関して意見や感想があれば入力をお願いします。
- 3 審 判 ④ 本日の判定に対して伺います。  
⑤ リスペクト・フェアプレーに関して意見や感想があれば入力をお願いします。
- 4 保 護 者 ④ 自チームの保護者の方の応援はどうでしたか。  
⑤ リスペクト・フェアプレーに関して意見や感想があれば入力をお願いします。

## 結 果

設問によっては複数回答が可能な設定ではあったが、「複数回答可」との注釈のないままのアンケート実施となってしまったため、回答者によっては複数回答を念頭に置かず回答していた場合もあり、集計にあたっては全回答数を母数として選択された回答の割合を示すこととした。

- 設問ごとに選択された回答の割合を円グラフで示し、春・夏・秋の比較が可能な表記とすることで取組の継続に伴う傾向の変化を検討できるようにした。
- 回答の選択肢ごとに、春・夏・秋の割合の比較が可能となるようパーセンテージを示し、夏と秋については、カッコ内にパーセントポイントの増減（前回比）を記した。
- 指導者・審判・保護者については、「リスペクト・フェアプレーに関して意見や感想があれば入力をお願いします」との設問により入力された多数の意見・感想の中から、「ネガティブな内容も含めた意見・感想の全体的傾向」に配慮し、それらの一部を転載した。
- 選手・指導者・審判・保護者による回答の傾向について、旭川地区サッカー協会リスペクト・フェアプレー委員会委員長による分析と考察を加えた。

## 【選手】

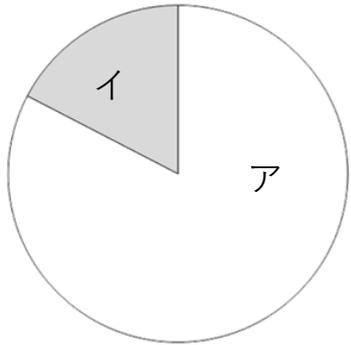
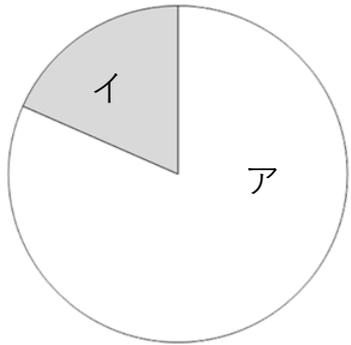
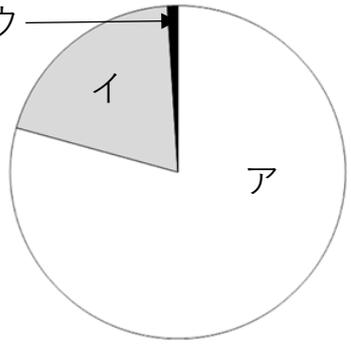
Q 味方選手のミスにどんな声をかけましたか。

春	夏	秋
ア. ミスに対して気にするなと声をかけた。		
63.5%	60.5% (3.0pt ↓)	66.2% (5.7pt ↑)
イ. 何も言わなかった。		
33.3%	35.8% (2.5pt ↑)	32.3% (3.5pt ↓)
ウ. ミスに対して怒った。		
2.4%	1.5% (0.9pt ↓)	0.5% (1.0pt ↓)
エ. ミスに対して文句を言った。		
0.8%	2.2% (1.4pt ↑)	1.0% (1.2pt ↓)

Q 相手選手に対してどんな態度を取りましたか。

春	夏	秋
ア. リスペクトの精神で臨んだ。		
99.2%	98.4% (0.8pt ↓)	94.6% (3.8pt ↓)
イ. 相手のミスを喜んだ。0.8%		
0.8%	0.8% (0.0pt ⇔)	3.9% (3.1pt ↑)
ウ. 文句や悪口を言った。		
0.0%	0.8% (0.8pt ↑)	1.5% (0.7pt ↑)

## Q 審判にどんな態度を取りましたか。

春	夏	秋
		
<b>ア. 判定に従った。</b>		
82.6%	81.6% (1.0pt ↓)	79.3% (2.3pt ↓)
<b>イ. 思わず声を出してしまったが判定には従った。</b>		
17.4%	18.4% (1.0pt ↑)	19.7% (1.3pt ↑)
<b>ウ. 判定に文句を言った。</b>		
0.0%	0.0% (0.0% ⇒)	1.0% (1.0% ↑)
<b>エ. 審判員を侮辱した。</b>		
0.0%	0.0% (0.0% ⇒)	0.0% (0.0% ⇒)

## 《 選手による回答の分析と考察 》

味方選手のミスに対する声かけは、「気にするなどの声かけ」が最も多く、次いで「何も言わなかった」であり、「気にするなどの声かけ」は「何も言わなかった」の2倍程度となっている。

選手たちは味方のミスに対し、次のプレーへの早い切り替えのため、積極的に忘れさせようとしていることがうかがわれる。

相手選手に対する態度については、ほぼ全員が「リスペクトの精神で臨んだ」と回答してはいるが、「相手のミスを喜んだり文句や悪口を言ったりはしなかった」から選択した回答であるとも考えられ、「対戦相手は敵ではなく、サッカーを楽しむための大切な仲間であること」の真の理解と浸透に向け、この結果に甘んじず意識啓発を続けなければならない。

また、少数ではあるものの「相手のミスを喜んだ」「文句や悪口を言った」については、微増傾向が認められるが、これは、リーグ戦が進みチームの順位等への意識が強まっていたことも背景になっているのではないかと予想される。

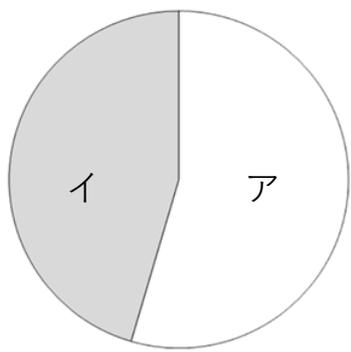
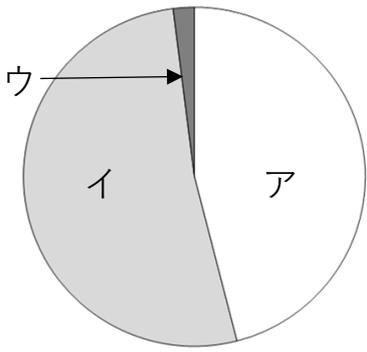
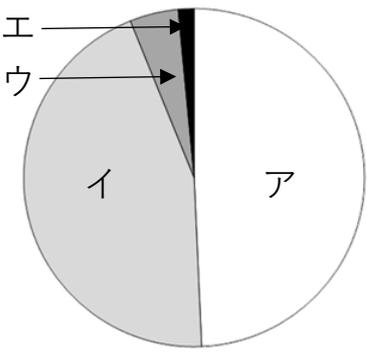
審判への態度については、過度でないファーストリアクションは一定程度認められるものの、ほぼ全員が「判定に従った」と言っている。

しかし、本アンケートに保護者より寄せられた、「リスペクト・フェアプレーの理念が、外部の批判を封じて自分たちを安全な場所に置き、未熟なままでも批判させないようなものであってはならない」という指摘（9ページ中段）を真摯に受け止めるなら、選手による審判への態度はリスペクト・フェアプレー精神に裏打ちされたものとして認めつつ、審判技術の適正さという側面からの検討やアプローチも求められる。

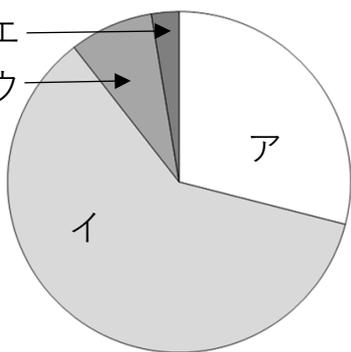
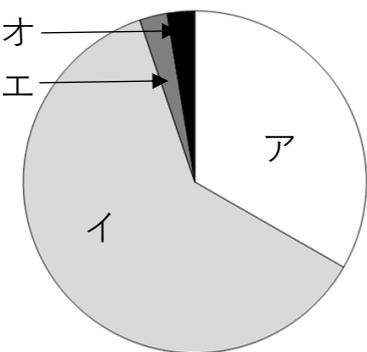
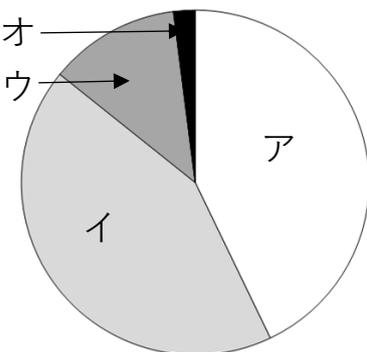
つまり、審判員には、選手たちが審判の判定に従っていることに安心・慢心することなく、審判技術の一層の向上に向けた努力の継続を求めると同時に、MWOによる審判への気付きの共有もより積極的に進めていく必要がある。

## 【指導者】

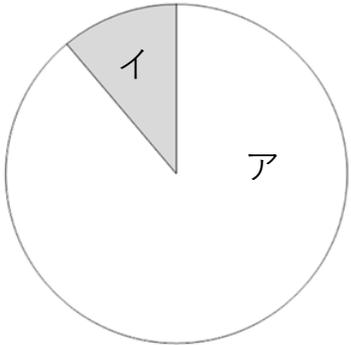
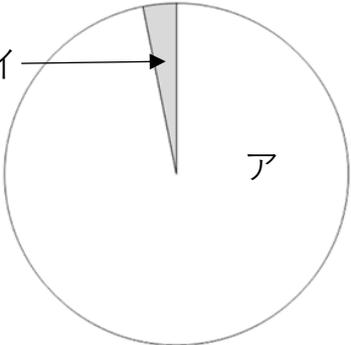
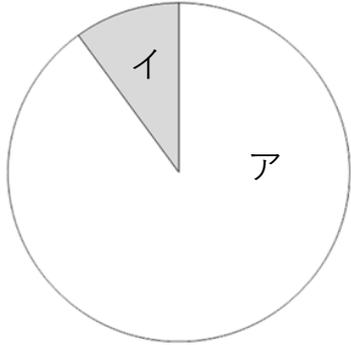
Q 選手のプレーに対してどのような声かけをしましたか。

春	夏	秋
		
<b>ア. 選手を励ましたり、トライを促したり、ポジティブな声かけができた。</b>		
54.5%	46.0% (8.5pt ↓)	49.3% (3.3pt ↑)
<b>イ. 良いプレーに賞賛の声かけを行えた。</b>		
45.5%	52.0% (6.5pt ↑)	44.6% (7.4pt ↓)
<b>ウ. プレーが終わった後のネガティブなものが多かった。</b>		
0.0%	2.0% (2.0pt ↑)	4.6% (2.6pt ↑)
<b>エ. ミスに対して叱責した。</b>		
0.0%	0.0% (0.0% ⇒)	1.5% (1.5pt ↑)

Q 選手の判断に対してどのような姿勢で臨みましたか。

春	夏	秋
		
<b>ア. 選手の判断に委ね、励ます声かけのみを行った。</b>		
28.9%	33.3% (4.4pt ↑)	42.9% (9.6pt ↑)
<b>イ. 必要最小限にコーチングをとどめた。</b>		
60.5%	61.5% (1.0pt ↑)	42.9% (18.6pt ↓)
<b>ウ. ワンプレワンプレーに声をかけるなど、判断の機会を奪ったように感じる。</b>		
8.0%	0.0% (8.0pt ↓)	12.2% (12.2% ↑)
<b>エ. オーバーコーチングが目立ったように感じる。</b>		
2.6%	2.6% (0.0% ⇒)	0.0% (2.6pt ↓)
<b>オ. 全部選手に委ねた。</b>		
0.0%	2.6% (2.6% ↑)	2.0% (0.6pt ↓)

Q 審判の判定に対してどのような態度で臨みましたか。

春	夏	秋
		
<b>ア. 判定に対してリスペクトしていた。</b>		
88.9%	96.9% (8.0pt↑)	90.0% (6.9pt↓)
<b>イ. ファーストリアクションで不満を出したが、判定にはリスペクトしていた。</b>		
11.1%	3.1% (8.0pt↓)	10.0% (6.9pt↑)
<b>ウ. 判定に対するリアクションを多くとってしまった。</b>		
0.0%	0.0% (0.0%⇒)	0.0% (0.0%⇒)
<b>エ. 判定に異議を唱えた。</b>		
0.0%	0.0% (0.0%⇒)	0.0% (0.0%⇒)

Q リスペクト・フェアプレーに関して意見や感想があれば入力をお願いします。

- 非常に意義のある取り組みであると感じています。是非とも続けて欲しいです。(複数)
- このような環境があることで、自身も気を付けなければという意識が働いています。(複数)
- 選手や審判を尊重することの大切さを再認識できる良い機会となりました。
- 選手にプレーだけでなく、審判・指導者・家族、仲間などに対する感謝やリスペクトの気持ちを促し、考えさせる良い機会になるかと思います。
- この期間を利用して、選手に「リスペクト」について考えさせています。また、私たち指導者もこの機会に自分たちの指導の振り返りを行って、より良い指導ができるように取り組んでいます。
- 宣誓文を読み上げる体験ができ、緊張感を持って試合に臨めました。
- これからも選手を大切にしたいコーチングを目指します。
- MWOにご指摘いただいた点をスタッフで共有し、次節以降のベンチワークに生かしたいです。
- ジャッジに対してプレーヤーだけではなく、ベンチにいる選手やベンチ外の選手にも各チームで指導が必要だと感じました。

《 指導者による回答の分析と考察 》

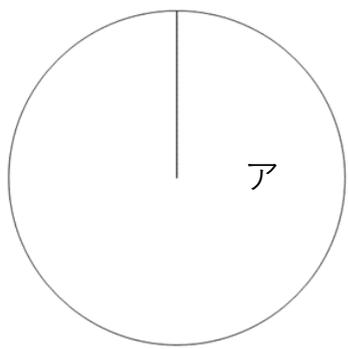
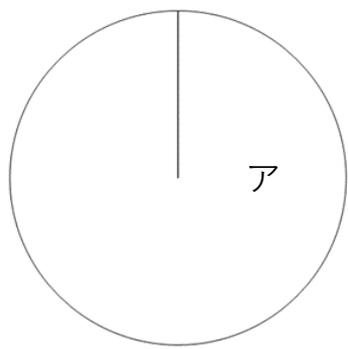
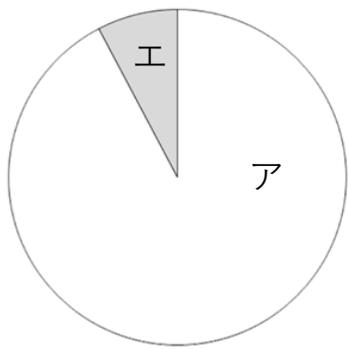
選手のプレーに対する声かけは概ね良好と思われるが、極めて少数ではあるものの微増しているネガティブな声かけは、リーグ戦が進みチームの順位等への意識が強まっていたことが背景かもしれない。

選手の判断に対する姿勢については、多くの指導者に選手の判断の機会を奪わないよう留意している様子がうかがわれるが、これは、これまでのMWOによるオーバーコーチングに関する気付きの積極的な伝達が大きく影響していると思われる。

審判の判定に対する態度は極めて良好ではあるが、多くの指導者が審判としても活動している中、選手による回答への考察でも述べたように、審判技術の一層の向上を目指さなければならない。

## 【審判】

Q 本日の判定に対して伺います。

春	夏	秋
		
<b>ア. 感情をコントロールして満足する判定ができた。</b>		
100%	100%	92.3% (7.7pt ↓)
<b>イ. チームや選手からの異議で委縮してしまった。</b>		
0.0%	0.0% (0.0%⇒)	0.0% (0.0%⇒)
<b>ウ. 感情的になってしまった場面があった。</b>		
0.0%	0.0% (0.0%⇒)	0.0% (0.0%⇒)
<b>エ. その他：イエローカードを出すべきところで出せなかったことがあった。</b>		
0.0%	0.0% (0.0%⇒)	7.7% (7.7% ↑)

Q リスペクト・フェアプレーに関して意見や感想があれば入力をお願いします。

- 選手たちはフェアプレーを心がけて試合に臨んでいました。
- 素晴らしい取り組みだと思います。
- 選手が「フェアプレー！フェアプレー！」と言いながらプレーしていました。意識づけという面でも効果がある、良い取組だと思います。
- 選手たちや指導者の方からの異議もなく、安心して笛を吹くことができました。
- 宣誓することで、改めて気が引き締まりました。
- MWOを配置するのは大変ではあるが、そのおかげで各指導者も意識が高まるので、必要な取組だと感じる。
- 真剣に楽しくサッカーできる環境に感謝します。
- 選手のアピールに左右されてしまう。いつまでたっても、自分の笛が正しかったのか考えてしまう。

### 《 審判による回答の分析と考察 》

秋の回答者1名を除き全員が「感情をコントロールして満足する判定ができた」と回答した。

事業委員会事務局においては一定のスキルを有する審判を配置していることに加え、選手たちのリスペクト・フェアプレーに係る意識の向上という側面もあることから、この結果は妥当なものと言える。

しかし、MWO 報告書においてはスキル不足や連携不足が一部指摘されている他、保護者による意見・感想には、審判に対する苦言もわずかながら認められる。

選手および指導者による回答への考察でも述べたように、審判が感情をコントロールして満足する判定ができていいる背景を考慮しつつ、審判技術の一層の向上に向けた努力の継続を忘れてはいけない。

## 【保護者】

Q 自チームの保護者の方の応援はどうでしたか。

春	夏	秋
<b>ア. 声援や拍手を行っていた。</b>		
69.8%	70.9% (1.1pt↑)	70.1% (0.8pt↓)
<b>イ. 相手チームの良いプレーにも拍手などで讃えていた。</b>		
26.7%	25.8% (0.9pt↓)	28.1% (2.3pt↑)
<b>ウ. 相手チームの選手に対して非難する声があった。</b>		
1.4%	0.0% <1.4pt↓>	0.6% <0.6pt↑>
<b>エ. 自チームの選手に対してミスを責める声があった。</b>		
0.7%	2.2% (1.5pt↑)	0.6% (1.6pt↓)
<b>オ. 判定に対して異議を唱えていた。</b>		
1.4%	1.1% (0.3pt↓)	0.6% (0.5pt↓)

Q リスペクト・フェアプレーに入力をお願いします。

- 素晴らしい取り組みだと思います。(複数)
- いいアンケートですね！
- この文化が根付きますように！
- 良い取り組みだと思います。観客席からの温かい声援が選手にとって力になると思います。自分の子だけでなく、全ての選手の頑張りを讃えたり、応援できることは素晴らしいと思います。
- リスペクト精神を忘れずサッカーを楽しんでほしいです。
- 自チーム、相手チームとも“RESPECT”になってから審判判定だったり相手選手のことを責めたりする声なくなりつつあるなと感じます。そのぶん声援・拍手が増えた気がします。
- 相手の選手達とすれ違う時、挨拶をしてくれて、しっかりプレー以外でも指導されているのが伝わりました。
- 最後は勝ち負けに関係なくお互いを讃え合っていてよかったです。
- 交代した選手がコートから礼をして出た後に、副審とタッチをしていて何か一瞬言葉を交わし笑顔だった姿があり、微笑ましく思いました！
- 保護者、観客は素晴らしいプレーと、交代してベンチに帰ってきた選手に労いの拍手をしていました。とても良い雰囲気だったと思います。
- 顧問の先生方から選手に対して「ありがとう」という声かけがたくさんあり、とてもステキだと思いました

- 次の試合の選手たちが、観戦の保護者の前を横切らないように気遣っていたり、試合中の他チームの応援を行っていました。マナー良くこちらも気持ちよく観戦出来ました。
- 自分の子が失敗したらどうしようと気が気ではなかったが、互いのチームをリスペクトし声援していて良かったです。
- 今年サッカーを始めたばかりで私も試合自体を初めて観ていますが、批判などの声が聞こえないのはとても良いことだと思います。
- コンサドーレの保護者が試合後相手チームにも声援を送っていて、見ていて気持ち良かったです！
- 普段の観戦を振り返ると、どうしても自分の子どものチームの応援だけをしがちになっていました。今日に関しても試合に夢中になり忘れていた時もあり反省しています。この期間中だけでなく、平日頃からこういう気持ちを持って観戦しなくてはならないと思いました。
- 大人が意識することによって子どもたちにも良い影響があると思うので、引き続き協力していきたい。
- プレー中に競り合う場面で選手のユニホームや腕を引っ張るなどの行為がとても気になります。怪我にもつながるのでペナルティを重くしていただきたい。
- 対戦相手の選手が試合後、レフェリーの判定に文句を言っているのが聞こえてきて、とても不愉快に感じました。指導の先生方にマナーも含めてリスペクト・フェアプレーの精神を指導していただいて大会に参加してほしいと強く感じました。
- 猛暑での試合で熱中症になりかけていたので、水分補給だけではなく選手席に日除け屋根のない会場には設置を検討してほしい。もしくはテントを立てるなど万全な状態で試合に臨めるようにしてほしい。
- 相手チームの選手に対して配慮に欠ける言動がありました。リスペクト・フェアプレーの理念が、選手・指導者・審判に対する批判を排し、より積極的にレベルアップするための試行錯誤に対して、許容する内容のものであればよいのですが、外部の批判を封じて自分たちを安全な場所に置き、未熟なままでも批判させないようなものであってはならないと思います。外部からの不満が出ないように、さらなる審判技術や指導方法のレベルアップ、最新の戦術につながるサッカー観のアップデートができる環境を求めます。

## 《 保護者による回答の分析と考察 》

「相手チームの良いプレーにも拍手などで讃えていた」と回答した割合が予想以上に多く、保護者による意見・感想からもうかがわれるように、保護者の多くは本取組に高い関心と理解を示し、好ましい意識や態度で観戦できていると思われる。

保護者による選手へのコーチングや対戦相手や審判への暴言など、保護者にある問題も少なからず報告を受けるが、本取組の充実を通してリスペクト・フェアプレーに係る保護者の意識や態度が一層高まり、観客席の雰囲気により向上することにより、それらの問題は副次的に改善するものと思われる。

保護者による意見・感想については、その大半が本取組に対する賛同の声や感謝の声、保護者自身の自戒の念や今後への期待など、我々に大きな勇気と活力を与えてくれるものであった。

一方、審判技術の未熟さへの苦言や、リスペクト・フェアプレーの理念の浸透が正当な批判までも封じることにつながりかねないという危惧など、大変貴重な指摘をいただくこともできた。

リスペクト・フェアプレー文化の醸成のためには、選手を中心にクラブと家庭が両輪となって様々な取組を進めることが必要である。

その意味においても我々は、今後もすべての保護者の声に真摯に耳を傾けつつ、保護者の理解と共感を得られる取組の一層の充実を目指さなければならない。

合わせて、多くの保護者がCWOとして所蔵クラブの運営等に参画できるよう、協会としての環境整備等も積極的に進めたい。